

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2023	開講キャンパス	都城	開設学科	子ども教育学科				
科目名称	ESD・環境教育演習					授業形態	演習		
科目コード	750184	単位数	2	配当学年	4	実務経験教員担当		アクティブ ラーニング	○
教員氏名	遠藤 晃								
授業概要	<p>新・学習指導要領は、ESDを一つの基盤として、議論が進められ策定に至った。学習指導要領から、最終的にESDという言葉は消えたが、その理念や内容は確実に取り入れられ、ESDと学校教育の融合性は高い。</p> <p>本演習では、野外活動を通してさまざまな自然環境や環境教育実践に触れて、受講者自身が自然体験することを基礎とする。その上で、環境教育を生態学及びESDの視点から捉え、教育現場における幼児や児童を対象とした環境教育の現状・問題点を把握し、地域の環境問題の見聞を踏まえて、受講者自身が環境教育のプログラム立案をおこない、環境教育の実践的な力を身につけることを目指す。本講義は、3年次開講の「環境教育論」の実践編である。</p>								
関連する科目	環境問題入門、環境教育論、環境問題演習								
授業の進め方と方法	はじめに、ESDと学校教育に関する理論や現状について学ぶ。その後は、フィールドワークの準備と実施、まとめを繰り返す。最終的にはプログラムを立案し、模擬的にプログラムを実践する。								
授業計画	<p>第1回：自然に学ぶ意義：ESD（持続可能な発展のための教育）の視点に立った環境教育</p> <p>第2回：学校教育における環境教育の現状と課題（ESDカレンダーと問題解決学習）</p> <p>第3回：野外活動・身近な環境調べ(1)：大学周辺の自然・植物編</p> <p>第4回：野外活動・身近な環境調べ(2)：大学周辺の自然・動物編</p> <p>第5回：野外活動・身近な環境調べ(3)：地域の自然・干潟1</p> <p>第6回：野外活動・身近な環境調べ(4)：地域の自然・干潟2</p> <p>第7回：野外活動・身近な環境調べ(5)：地域の自然・河川1</p> <p>第8回：野外活動・身近な環境調べ(6)：地域の自然・河川2</p> <p>第9回：野外活動・身近な環境調べ(7)：地域の自然・森林1</p> <p>第10回：野外活動・身近な環境調べ(8)：地域の自然・森林2</p> <p>第11回：研究機関・展示施設等における環境教育の体験</p> <p>第12回：身近な環境を活かした子ども向け環境教育プログラムの立案1</p> <p>第13回：身近な環境を活かした子ども向け環境教育プログラムの立案2</p> <p>第14回：身近な環境を活かした子ども向け環境教育プログラムの立案3</p>								

	第15回：環境教育プログラムの実践									
授業の達成目標	学校教育・幼児教育のなかでESDの視点に立った環境教育に取り組む意義を理解し、現状把握と問題点の認識を図る。その上で、受講者自身が野外活動を体験し、地域の環境に関する生態学および科学的知見を蓄積し、その知見を活用した環境教育を立案、グループ学習を通して練り上げ、表現するまでのプロセスを経ることで、初等教育（幼稚園を含む）における環境教育の実践的な指導法を習得することを目標とする。									
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力	(1)	○	(2)						
	2. 汎用的技能を応用し活用する能力	(1)	○	(2)	○					
	3. 人間力、社会性、国際性の涵養	(1)		(2)		(3)		(4)	○	(5)
授業時間外の学習	予習：講義終了後に適宜、次回の講義内容につながる題を課す（1時間程度）。また、資料作成、実験準備、模擬授業の準備などの課題を課す（1時間程度）。不明な点は、担当教員に随時相談すること。									
	復習：講義終了後に適宜、講義内容を振り返る内容の課題を課す（1時間程度）。また、資料作成、実験準備、模擬授業の準備などの課題を課す（1時間程度）。不明な点は、担当教員に随時相談すること。									
課題に対するフィードバック	毎回の課題、レポート、最終課題等は提出または評価の後、解説をする									
評価方法・基準	演習への取り組みを、レポート、プレゼンテーション、意見発表、プログラムの作成などグループ活動への主体的・協働的・創造的参画の観点から、総合的に評価する(100%)。評価基準については、講義内容の理解を最低限のレベルとし、理解に基づく活用、さらに応用といった、知識を基にして様々なことと関連づけて思考・判断したことが表現できているかどうかを評価する。									
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料を配布する。									
参考書	・「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究最終報告書」   （国立教育政策研究所・教育課程研究センター）   ・「環境教育指導資料[小学校編]」国立教育政策研究所・教育課程研究センター（東洋館出版社）   ・「持続可能な地域と学校のための学習社会文化論」〈「ESDでひらく未来」シリーズ〉（学文社）   ・「小学校学習指導要領解説 理科編」（文部科学省）									
備考	・「野外活動・身近な環境調べ」は平日もしくは土曜日等を利用して2コマを連続して実施する場合がある。野外活動には必ず参加すること。   ・天候等により講義内容が入れ替わること、変更になることがある。									